

2019年JMRC北海道レースシリーズ 2019 北海道クラブマンカップレース第4戦 [JAF公認No.2019-8804]

開催日:10月6日 開催場所:十勝インターナショナルスピードウェイ 格式:準国内 主催:TOSC [クラブ登録No.加盟49007]、MSF(株) [団体登録No.加盟49002]

2019年JMRC北海道サーキットトライアルシリーズ 2019 TOKACHIサーキットトライアルRd.3 [JAF公認No.2019-8211]

開催日:10月6日 開催場所:十勝インターナショナルスピードウェイ 格式:地方 主催:TOSC [クラブ登録No.加盟49007]

レポート/村岡克己 フォト/加藤和由

VITA-01 北海道シリーズ第4戦Race1、Race2とも
見事にポールトゥウィンを飾った鶴賀義幸選手。



VITA-01は鶴賀義幸選手が2戦連続のポール・トゥ・ウィン

10月の十勝は秋の空気に包まれ、朝7時の気温は8℃と冷え込んだ。しかし、予選が始まる時間には気温も上がり、青空の下で2019年最終戦がスタートした。

RACE-1

TOYOTA GAZOO Racing Netz-cup Vitzレースでは、静岡のNo150 赤堀康裕選手と、大阪の橋本元選手がシリーズポイントで並び、北海道の地で一騎打ちとなった。グリッドはPPが赤堀選手、2番手三浦康司選手、橋本選手は3番手と続く。スタートからトップに

立った赤堀選手と、2番手に上がった橋本選手の走りはチェッカーまで続くが、赤堀選手が優勝。しかし2番手の橋本選手もベストラップを取り、第2レースに逆転の可能性を残した。

VITA-01は、ポイント首位の古井戸竜一選手が予選2番手で、PPは鶴賀義幸選手。レースは鶴賀選手を古井戸選手が追う展開となるが、レース中盤には古井戸選手が一時トップに。しかし鶴賀選手がその後、抜き返して優勝を決めた。Saurus-Jrは、阿部晃太選手と五十嵐弘昌選手がサイドbyサイドの激戦を展開した結果、阿部選手が優勝した。

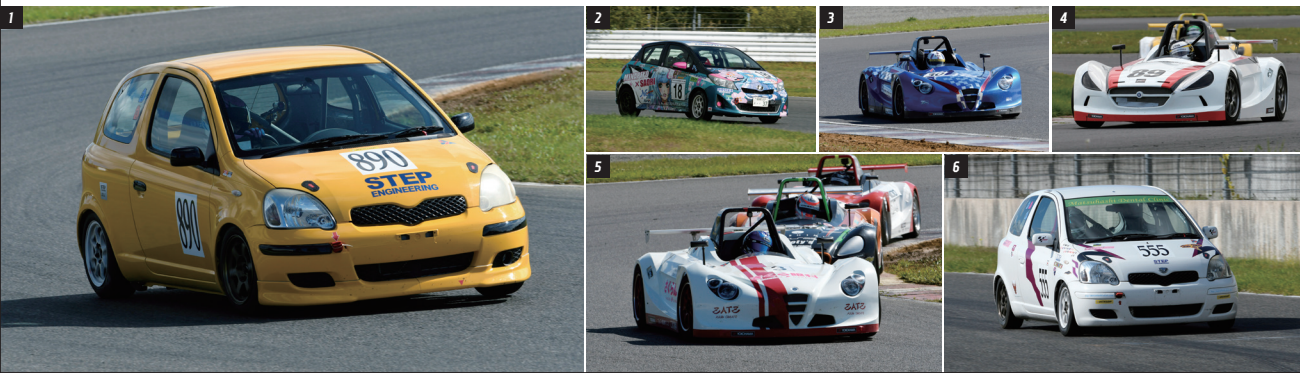
N1-1000は、PPの中村高幸選手と、ポイ

ントリーダー松橋智史選手の戦いだが、松橋選手の車両には55Kgのウェイトハンデが課されており、戦を強いられる。レースは中村選手が優勝して、松橋選手は2位でゴールした。

RACE-2

TGR Netz cup Vitzレースのスタートグリッドは第1レース同様に、PP 赤堀選手、2番手三浦選手、3番手橋本選手の順。抜群の加速を見せた3番手スタートの橋本選手が1コーナーで赤堀選手に並び、そのままトップに立つ。チャンピオンには優勝するしかない橋本選手と、後ろからプレッシャーをかける赤堀選手の戦いは每周繰り広げられるが、レース後半、1コーナーでイン側を固める橋本選手にア

1. N1-1000北海道シリーズ第4戦は中村高幸選手が2戦連続でポールトゥウィン。2. みなびよ選手はNetz Cup Race1で6位。3. VITA Race1で6位の鬼塚益生選手。4. VITA Race2で6位の後藤比東至選手。5. VITA古井戸竜一選手はRace1で2位、Race2は4位でゴール。6. N1-1000松橋智史選手はウェイトハンディに泣き、2戦連続の2位にとどまった。





ウトからクロスラインで仕掛けた赤堀選手は、続く2コーナーで一瞬の隙を突き、橋本選手のインに入りトップを奪回する。結局、赤堀選手はそのままトップで走り切り、優勝。北海道シリーズのチャンピオンとなった。

VITA-01のスタートグリッドは、第1レースのベストラップ順で、PPに鶴賀選手、2番手には今年レースを始めたばかりの18歳、四倉悠聖選手、3番手に古井戸選手がついた。1周目から逃げる鶴賀選手に対して四倉選手は遅れ始め、古井戸選手が2番手に浮上するも、6台

の集団となって飛び込んだ2周目の1コーナーでドラマが起きる。

スピードに乗った8番手スタートの竹谷和浩選手が古井戸選手のインに飛び込み、2台はハーフスピン。これを避けるためにコースオフした四倉選手は2番手でコースに復帰するも、佐藤元春選手は連発スピン。平中繁延選手が3位に浮上する。古井戸選手はレース復帰後、前走車をパスしていき、4位まで挽回するがここで無情のチェッカー。鶴賀選手が最終周にベストラップを出す走り、2連勝を飾り、1ポイント差で逆転してシリーズチャンピオンを射止めた。

27. サーキットトライアル(CT) TB-4クラス優勝の小野寺俊俊選手。28. CT TB-6 優勝の平鹿一美選手。29. CT TB-5 優勝の千葉翔太選手。30. CT TB-3 優勝の後藤祥平選手。31. CT TB-2 優勝の松浦あきひさ選手。32. CT C-3クラス優勝の馬渡俊夫選手。

Saurus-Jrは、阿部選手と五十嵐選手が最終ラップまでテールtoノーズの戦いを繰り広げたが、ベストラップを記録した五十嵐選手が優勝。2位に入った阿部選手がチャンピオンを獲得した。レース後、五十嵐選手はこの勝利を以てレースからの引退を発表し、「長い間ありがとうございました。20年間楽しませて頂きましたが、来年からはサポートする立場で参加させていただきます」とコメントした。常にトップクラスで

7. TGR Netz Cup Vitz レースでも赤堀裕選手が接戦の末に2連勝。チャンピオンも決めた。8. Netz Cup Race1で4位に入った阿部晃久選手。9. Netz Cup Race1で5位獲得の清水宏保選手。10. Netz Cup Race2で4位に入った原後平選手。11. VITA Race1で5位の竹谷和浩選手。12. VITA Race2で5位の太田良平選手。13. N1 1000 Race1 表彰の皆さん。14. VITA Race1 表彰の皆さん。15. VITA Race2 表彰の皆さん。16. Netz Cup Race2 表彰の皆さん。17. Netz Cup 橋本元選手は2戦連続2位にとどまった。18. VITA Race2で2位入賞の四倉悠聖選手。19. Netz Cup 三浦康司選手は2戦連続して3位に入賞。20. N1-1000 なむらりょう選手は2戦連続で3位獲得。21. Saurus Jr Race1 優勝の阿部晃太選手。Race2は2位。22. Saurus Jr Race2では五十嵐弘昌選手が優勝。23. VITA Race1で3位入賞の佐藤元春選手。24. VITA Race2で3位入賞の平中繁延選手。25. Saurus Jrで2戦連続3位獲得の吉田哲也選手。26. Saurus Jr Race2 表彰。このレースで引退を表明した五十嵐弘昌選手(右)には惜しめない拍手が送られた。

競い合いながら、若手ドライバー育成に力を注ぎ続けている“五十嵐先生”(愛称)に、多くの拍手が送られた。

N1-1000は、第1レース同様の展開となり、中村選手、松橋選手の順でゴール。シリーズポイントは同ポイントとなるも、優勝回数の差で中村選手がチャンピオンとなった。

また北海道クラブマンカップと同日開催となった十勝サーキットトライアル第3戦には7台が参加。GT-Rを駆った馬渡俊夫選手が1分31秒963のタイムで総合ベストをマークした。コペンで参加したリエ選手は、「順位に関係なくモータースポーツが好きなので、このクルマで参加できるこの競技とオートテストに出場しています」と笑顔で答えてくれた。